

ってくる事でしょう。それは私一人で出来る事ではありません。

現在の事務局内での良好な人間関係が信頼関係を導いています。本音で言い合い、尊重し、対話をし、共有する。ある時は、解りあえるまで話し合い解決して行く。これは事務局ならではの事かもしれませんが、本来はどのセクションでも必要な事です。日々の忙しさに紛れて対話ではなく、メールだけで済ませてしまっていないですか？

直接対話をする事によってより良い人間関係を築き、深まり、信頼関係が生まれ、難問を解決して行く事も出来ます。前回からの『声に出す』とても大事な事です。何も言わなければ解決しません。前進しません。より良い関係も築けません。従って信頼関係も築けないと考えます。今回のテーマは今まであまり考える事無く、普通に言葉で発し過ぎていました。改めて考え直す事は大変有意義でしたが、とても重い内容です。

●おかし屋ぱれっと

職員 玉井七恵(4年目)

前回から間を開けずに2度目の勉強会をしたことで、セクションを超えてスタッフ間で本音で話し合う関係の土台ができ始めていると感じます。言葉をじっくり交わすことで個々人の間の溝が埋まってきていると感じとても有意義でした。

この2回の勉強会で色々なスタッフの話の聞き、ぱれっとのスタッフは「人が好き」というところが共通していると感じました。また、一つの大きな目標に向かって進む同志であり仲間であること

を改めて認識しました。この実感が私が仕事をする上での勇気になっています。

諸先輩方に追いつき、少しでもぱれっとを、ひいては福祉を前に進める力になりたいし、後輩が迷っている時にはヒントをスッと出せるようになりたい、また、先輩後輩関係なく、仲間としていつでも助け合える関係でありたいと思います。

今回の議論で辿りついたこの思いに立ち返れば、今後お互いを認め合い、本音で話し合うことを恐れず、目標に向かって日々の業務に取り組んでいけるのではないかと思いました。

●えびす・ぱれっとホーム

職員 武安 倫(2年目)

前回に引き続き、やはり全スタッフが顔を合わせて話すことは貴重な時間だと感じました。異なるセクションのスタッフとの議論は新しい発見があり、とても面白いです。今回は職員同士の信頼関係がテーマの勉強会でしたが、再度ぱれっとの理念に立ち返り、目的の共有の大切さに結びつくことが今回自分としても得られた大きな学びでした。

他のグループの話に出ていた職員同士の「対話」の重要性は必要不可欠だと共感できました。スタッフそれぞれの考え方があって当然ですから、お互いが納得できるまで議論することは大切なのだと感じました。全てのセクションのスタッフの話の聞けば聞くほど、ぱれっとは現在大変な時期にあるのだと感じ、妥協せずに共に乗り越えて行くことで絆が深まり、深い信頼関係が作られていくのだと感じました。